

## 《研究ノート》

## F・コールターの「福祉とスポーツ政策」

内 海 和 雄

本稿は、福祉国家とスポーツ政策の関連について今最も活発に理論展開しているF・コールター教授の所論を検討するための準備作業である。

## I イギリスのスポーツ政策とスポーツ政策研究

拙著『イギリスのスポーツ・フォー・オール—福祉国家のスポーツ政策—』（不味堂出版、2003年9月）と拙稿「イギリス福祉国家とスポーツ政策」（『一橋論叢』2002年2月）で、イギリスのスポーツ・フォー・オール政策とスポーツ政策研究の誕生について既に述べた。前者は60年代から70年代に掛けての高度経済成長に支えられた福祉国家の第二段階（福祉国家の充実期）に、国民の文化・芸術の権利保障と同時に社会統合的パターナリズムの一環として、すべての国民にスポーツへの参加を保障しようという「スポーツ・フォー・オール」として誕生した。イギリスは労働者階級排除を本質とするアマチュアリズムの誕生国であり、それはまたブルジョア個人主義のエートスを内包し、スポーツは個々人の責任で対応するものだとして国民大衆のスポーツ参加への国や公共自治体による条件整備を長く否定してきた。が、その桎梏も除去され始めようとしていた。

80年代になると、サッチャリズムによる福祉攻撃が激化し、また、60年代以降の自治体におけるスポーツ行政部門の拡張、それに伴う専門職の増大は、スポーツ政策研究の必要性を高め、これまでのスポーツ史や体育教育研究とは別に、スポーツ政策研究が誕生した。

## II F・コールターの位置と略歴

### 1 F・コールターの位置

F・コールターは70年代はイギリスのスポーツ政策の成長を見ながら学生、大学院生を過ごし、80年代に論文を執筆し始めた。そして福祉国家の一環としてのスポーツ政策を反映して、スポーツ政策における市民権を強く意識しながら、今日まで来た。つまりスポーツ政策研究の第一世代として成長した。それ故に、常に新たな問題に直面し、多くが未だに唯一の研究であるケースも多い。

しかし、一方で80年代のサッチャリズム以降の新自由主義の導入により、福祉国家的政策だけから混合経済的な実態に移行するスポーツ政策の現実とそれに対応する政策研究は、その現実をより直視する必要があるとして、機械的に市民権論をかざす「標準的な市民権パラダイム (Normative Citizenship Paradigm)」だけでは現実把握できないと警告を発し始めたが、それが前者からは「新自由主義者」との誹りとなり、論争に至った。

ここに、今のイギリスにおけるスポーツ政策とその研究の混乱と苦悩の一端が示されている。こうした中で、F・コールターはあくまでも現実把握を強調している。

### 2 学歴・研究職歴

F・コールターは1946年に北アイルランドに生まれ、75年に北ロンドンポリテクニクで社会学士を取得した。77年にロンドン大学経済学部(LSE)で社会学修士を修め、その後職に就き、2002年にリーズメトロポリタン大学で博士号を取得した。

研究職歴としては、先ず北ロンドンポリテクニクの調査研究ユニットのリサーチフェローに就き(1978~81)、その後エディンバラ大学地理学部ツーリズム・レクリエーションユニットのリサーチフェローへ転任した(1982~83)。そして同大学モウレイハウス研究所レジャー研究センターへ移った(1984~86)。しかし、80年代後半には再び北ロンドンポリテクニク、レジャー・ツーリズム研究センターに所長として戻った(1986~90)。90年にはエディンバラ大学、レジャー

研究センター所長となり、多くの調査と研究を手がけた（1990～2003）。2003年5月からスターリング大学スポーツ政策研究教授として、転勤した。こうして、彼はロンドンを中心とするイングランドとエディンバラを中心とするスコットランドを拠点としつつ、全国を視野に入れながら、スポーツ政策の基礎調査と研究に邁進してきた。

その傍ら、スポーツカウンシル・研究諮問グループメンバーやカウンシル・オブ・ヨーロッパ「スポーツと社会結合」ワーキンググループメンバー、そしてスポーツスコットランド研究グループ議長他、政策策定のための研究グループにも深く関わり、この分野の中心的な一人として活躍している。

### Ⅲ F・コールターの研究概要

彼の研究は大きく、理論研究と調査研究とに分けられる。それらは巻末に資料A（理論研究）、資料B（調査研究）として掲げた。特に90年代はエディンバラ大学のレジャー研究センターで、総額6億円に近い委託研究を受け入れた。これはイギリスの大学が学外の諸資金を導入する方式を採用し始めたことと無関係ではない。しかし、F・コールターの場合はそれを受動的な次元で止まらせず、この調査研究、委託研究の中に彼の理論研究の素材を多く内在させて来たところにその卓越さを示し、多くの実証に支えられた特徴がある。

#### 1 F・コールターの研究変遷

F・コールターの研究領域と変遷は、1980年代初頭は、レジャー社会学、レジャー専門職の確立に関する理論研究が主となっている。そして80年代後半からは、レジャー・スポーツ提供の公共責任論、公共提供の理論的根拠を探究している。そして主に、90年にエディンバラ大学に移ってからは、多くの調査研究・委託研究を受託しながら、実態把握の方法論にも傾注し、それらの実証を基礎に90年代後半からは再び公共性と市場の混合経済に関連して多くの貴重な成果を残している。

ここで、一点だけ断っておかなければならないのは、F・コールターにおけるレジャー、レクリエーション、そしてスポーツの関連である。彼の論文でも前二

者の識別は明確ではない。従って、ここではほぼ同義語として受け止めておきたい。そしてスポーツはその内の一領域であるが、彼のレジャー、レクリエーション研究の大半がスポーツ領域でもある。

## 2 F・コルターの研究領域

### (1) 理論研究

理論研究の領域としては、概ね以下の4つの領域から構成されている。

- ・スポーツとレジャー政策
- ・スポーツ計画
- ・スポーツ行政と物価の意義
- ・スポーツ、社会的排除そして都市再開発

### (2) 調査研究・委託研究

1990年から2002年まで、資料Bに見るような委託研究を受託しその実証的研究を通しながら一方での理論的な要素を抽出してきた。委託研究ではあっても、テーマ、内容、方法はコルター側からも提起された。

研究所での委託調査、研究は1990年にエディンバラ大学へ転任してから2003年まで、約38である。その領域も多岐に渡っている。

## IV 機械的公共責任論の批判

ここでは、特にF・コルターの福祉国家とスポーツの公共による提供との関連に関する主張を垣間見る。これは先の4つの研究領域全体にまたがる基本テーマであり、全体を概観してからでないともとめきれないが、彼自身の直接的な議論の焦点、エッセンスは以下のようにまとめられる。

### 1 F・コルターの「福祉とスポーツ政策」

#### (1) 公共レジャー提供と社会的市民権

イギリスにおけるレジャー固有の理論と研究方法は必ずしも確立しているわけではないが、この間、福祉の一つの領域としては、どうにか確立してきた。(A-01, A-05) とはいえ、行政におけるレジャー部門は福祉の中で未だその地位を確立しているとは言えない実態である。(A-03, A-09, A-15, A-22) それは調査研

究・委託研究を通してとも言えることである。

こうした経緯をふまえて、F・コールターはレジャー研究における「標準的な市民権パラダイム」の機械的な公共責任論の批判へと向かう。(A-36, A-37, A-38) その骨格は既に1986～88年になされた『レクリエーションの福祉：レジャーにおける公共的提供の根拠』に示されており、概要を見ておきたい。

本書では、これまでの公共的レジャー提供の研究が「何を」「如何に」を中心に行われてきたが、「なぜ」という根本的理由を追及した来なかったとして、そのことを課題とした。そのため、T・H・マーシャルの市民的権利（18世紀）、政治的権利（19世紀）そして社会的権利（20世紀）という権利概念の発展の延長として、福祉国家の第二段階の「レジャー権」「スポーツ権」の承認を主張する、いわゆる「標準的な市民権パラダイム」である。これは福祉国家の中で、特に70年代に大きく飛躍したスポーツ政策を反映して、多くの研究者の前提ともいえるべき思考となったものである。

しかし、特に80年代以降のサッチャリズムの中で、市場化が強力に推進され、現実には公共と市場との競合、あるいは混合経済の中で、国民、地域住民へのスポーツ提供もこれまでの公共一本槍でなく、商業的提供も増え、「公共的提供＝市民の積極性の保障」「商業的提供＝市民の消極的消費」という機械的な思考が未だに席卷していることに警告を発した。つまり、現実に存在もしない公共的保障の空論を振り回すだけでなく、もっと実態に沿った研究の推進、つまり商業的提供の役割、意義の研究も推進する必要があると主張した。現実の正しい把握のために、「標準的な市民権パラダイム」を批判した。

しかし、この点で多くの「標準的な市民権パラダイム」論者から「コールターは新自由主義者か」との誹りを受けることになった。この点は後述の論争に譲る。

(2) 公共レジャー提供、その手段論（外部効果と社会的包摂）

上記が、スポーツ・レジャーの市民権的主張とその具体化の側面であるとする、ここでの側面は公共的提供における場合の手段の活用、つまり社会問題対処のための利用である。特に反社会的行動の減少（A-06, A-26）や、より多面的な「社会的包摂」（A-39, A-46）の課題を社会調査も踏まえながら解明した。

### (3) 入場料金と制限された市民権

参加阻害要因としてジェンダー、社会階級、民族性、入場料等が指摘されるが、F・コールターの場合、特に入場料問題についての実証研究に注目した(A-14, A-15, A-34)。こうした実証研究はイギリスで唯一のものであり、貴重である。ここでの結論として、公共施設使用料の値上げは主要な阻害要因ではなく、常時使用する人はあまり気にせず、最初から使用しない人は、そもそも使用料金が原因で使用しないのではない。施設利用の理由、あるいはスポーツへの参加は生活信条、生活様式など、もっと別の問題が主要な原因を占めていると述べている。これに関わって、90年代当初から導入された自治体業務の強制競争入札(CCT)が、民営化の導入であるとする思潮の中で、それは目的一方法一評価の曖昧であった自治体業務により明確な評価制度を導入することにもなり、必ずしもマイナス面ばかりではないと、F・コールターは冷静に分析した。

### 2 論争：R・ディームからの批判

こうして、論陣を張り始めたF・コールターに対してR・ディームが次の2点で批判した。第1はジェンダーやレジャー研究はそれ自体として独自の領域として確立している、第2はコールターが不平等の現実を見ようとせず、あるべき社会論に欠ける現状追隨的であり、もっと格差の原因追及とその是正のための研究に集中すべきである、と<sup>1)</sup>。本稿ではこの後者が主要な論点であり、そちらに焦点化する。

これに対し、F・コールターは「A-37, A-38」で反批判し、批判が抽象的であり、より具体的に、そして現実に即して議論しようと述べた。

1) Rosemary Deem, 'How do we get out of the ghetto? Strategies for research on gender and leisure for the twenty-first century', *Leisure Studies*, Vol. 18, No.3, July 1999, Leisure Studies Association, E & FN Spon

### 3 両者の論点

F・コールターはR・ディームが批判するように不平等研究は古いとは明言していないし、すべて市場化で可能であるとも述べていない。

この両者の現状認識における共通性は、福祉国家的政策によるスポーツ、レ

ジャー政策での公共的提供の現実とは70年代のような楽天的現実ではなく、混合経済的現実となっている、ということである。

しかし、その現状の把握の上で、そして今後の方向性の上で、力点の置き場所が異なっている。つまり、F・コールターは混合経済を実態として受け入れ、保障し得ない公共責任の部分までも教条的に叫ぶのではなく、資本主義社会のスポーツ政策のあり方を探究すべきだと主張する。一方、R・ディーム（他、標準的な市民権パラダイム論者）は、あくまでも公共的責任の不十分さを指摘する。その一方でF・コールターの指摘するように商業的実態の分析はほとんど無視している。

## V 福祉国家論とスポーツ政策研究の現状と課題

以上のような論争、及び諸理論は、スポーツ政策における公共責任と私的責任、公共性と市場、そこでのスポーツ政策の意義と役割などが問われている。その意味で、イギリスにおける福祉国家論とスポーツ政策の関連の到達点が垣間見える。これらは、福祉に関連する他領域と同様に、サッチャー政権以降の新自由主義政権下での苦悩を反映している。

F・コールターはスポーツ政策研究者のまさに第一世代として、実証と理論との結合に格闘しつつある人である。そしてスポーツの公共的提供の根拠について追究した数少ない一人である。その必然として福祉国家との関連を追究することになった。ここで、今後の研究課題の骨子をまとめておきたい。

①日本の現状ではスポーツの公共性論は未だ弱い。イギリスの場合、福祉国家を前提とした公共責任論が主流である。アマチュアリズムによって、大衆スポーツへの国家的介入が後進的であったイギリスが1960年のウォルフendenレポート以降の公共的責任論、つまり福祉国家の第二段階を経過して、スポーツ研究も、ようやくアマチュアリズムを克服しようとしていた。しかしスポーツ理論として、福祉国家論との関連、その公共責任、公共性論が深められたかといえば、全く逆である。スポーツ政策におけるその点の不十分さの克服が大きな課題である。

②「論は現実的な実証を伴って論じる必要がある」とは言うが、F・コールターの場合、理論研究において自らの実証研究との結合が十分でないように思う。F・コールターにおいても両者を結合した論述が問われているように思われる。それによって論はより積極的な説得力を有すると思う。

③スポーツの市場化の実態研究がない。拙稿「新自由主義下のスポーツ政策—市場化と公共化の対抗—」(『一橋論叢』2002年8月号)で分析した(日本の90年代)ように、同じスポーツでも、その使用する施設の特性によって市場化の可能なものと不可能なものに、はっきりと別れた。もし、後者をも強引に市場化すれば、それは必然的に文化の衰退を意味する。

こうして、スポーツには市場化に適さないものが多数あるという、「市場化の実態」「市場の欠陥」の詳細な分析も必要のように思われる。そうでなければ、文化の奇形的発展を招きかねない。

④上記の課題をも包摂した『福祉国家とスポーツ政策』の体系化である。F・コールター自信も構想しているが、未だその具体化にはとりかかっている。しかし、既存の論文や資料からそれは可能であると思われる。この課題は単にイギリス国内においてのみならず、全世界的に見ても求められており、期待したい。

概ね、以上のような課題が提起されると考える。

#### 資料 A (理論研究)

- 01 'Leisure Sociology or the Sociology of Leisure?', *Papers in Leisure Studies*, No.4, Polytechnic of North London, 1982
- 02 *Crowd behaviour at football matches: A study in Scotland Football Trust, 1984* (with Dr S Walker and M Foley)
- 03 A Leisure profession? Definitions and dilemmas, *Local Government Policy making*, Dec., 1986
- 04 *Access to the Countryside for Recreation and Sport*, Countryside Commission/Sports Council 1987 (with R Sidaway, Prof H Newby, P Scott and I Rennick)
- 05 *Recreational Welfare: The Rationale for Public Sector Investment in Leisure*,



- Gower, 1988 (with J Long and B Duffield)
- 06 *Sport and Anti-social Behaviour : A literature review*, Scottish Sports Council, Research Report, No.2, 1988
  - 07 *Leisure Policy : An unresolvable dualism?*, C. Rojek (ed), *Leisure for Leisure : Critical Essays*, Macmillan, 1988
  - 08 *Playing the Machines : The Use of Amusement Arcades*, The Centre for Leisure Research/British Amusement Catering Trades Association, 1989 (with Dr E Wimbush and M Allison),
  - 09 *Leisure Professionalism : Citizens or consumers?*, *Leisure Studies*, Vol.9, No.2, 1990
  - 10 *Recreation Management Training Needs*, Sports Council, 1990
  - 11 *Review of Sports, Recreation and Leisure Degree Courses*, CNAA, 1991
  - 12 *Digest of Sports Statistics : Third Edition*, Sports Council, 1991 (with L Johnson et al)
  - 13 *Financially Assisted Transport for Rural Swimming Pools*, Research Report, No.30, Scottish Sports Council, 1993
  - 14 *Differential Charges and Sports Participation*, Scottish Sports Council, 1993 (with R Frizzel and M Allison)
  - 15 *The impact of variations in charges on usage levels at local authority sport facilities*, Scottish Sports Council, 1993
  - 16 *Information Sources and Survey Methods for Recreation Management*, Sports Council, 1993,
  - 17 *Sport and Leisure Management : Compulsory Competitive Tendering*, National Report, Sports Council, 1993
  - 18 *The Role of Schools as Sports Providers*, East Midlands Sports Council, 1994 (with M Allison)
  - 19 *Team Sport Scotland : An Evaluation*, Scottish Sports Council, 1994 (with M Allison and I Martin)
  - 20 *Compulsory Competitive Tendering and Sports Development Planning in Scotland*, Scottish Sports Council, 1994
  - 21 *The Leisure Needs of Young People*, Wester Hailes Partnership, 1994 (with M Allison)
  - 22 *Compulsory Competitive Tendering : A Lost Opportunity?*, *Managing Leisure : An international Journal*, Vol.1, No.1, 1995
  - 23 *Measuring Sports Participation : model survey packages*, Sports Council, 1995

- (with C MacGregor and S Tait)
- 24 *A survey of visitors to Arran and their activities in the countryside*, Scottish Natural Heritage, 1995 (with C MacGregor and R Frizzel)
  - 25 *Sport and Community Development*, Research Digest, No.42, Scottish Sports Council, 1996 (with Mary Allison)
  - 26 *Sport and Anti-social Behaviour : A policy analysis*, Research Digest, No.41, Scottish Sports Council, 1996
  - 27 *Research Register : Leisure, Recreation and Sport*, English Sports Council, 1996 (with John Taylor)
  - 28 *UK Day Visits Survey*, 1994, Countryside Commission, 1996
  - 29 *National Parks Visitor Survey*, 1994 : Summary Report, Countryside Commission, 1996 (with C MacGregor and R Denman)
  - 30 *Facility Planning Model : Information Digest*, English Sports Council, 1997
  - 31 Leisure Science and Leisure Studies : Different concept same crisis?, *Leisure Sciences*, Vol.19, No.4, 1997
  - 32 *Young People and Sport, 1994 : 10 sports profiles*, English Sports Council (with John Taylor), 1998
  - 33 *Sports Participation in Scotland : 1987-1996*, Research Report, No.54, Scottish Sports Council, 1998
  - 34 *Unitary Pricing and Sports Participation*, Research Report, No.60, Scottish Sports Council, 1998,
  - 35 *Sports Participation in Scotland : 1997*, Research Report, No 61, Scottish Sports Council, 1998
  - 36 Leisure Studies, leisure policy and social citizenship : The failure of welfare or the limits of welfare?, *Leisure Studies*, Vol.17, No 2, 1998
  - 37 Leisure studies, leisure policy and social citizenship : a response to Rosemary Deem, *Leisure Studies*, Vol.19, No.1, 2000
  - 38 Public and commercial leisure provision : active citizens and passive consumers?, *Leisure Studies*, Vol.19, No.3, 2000
  - 39 *The role of sport in regenerating deprived urban areas*, Scottish Executive (with Mary Allison and John Taylor), 2000
  - 40 *Realising the Potential of Cultural Services : the arts*, Local Government Association, London, 2001
  - 41 *Realising the Potential of Cultural Services : sport*, Local Government Association, London, 2001

- 42 *Realising the Potential of Cultural Services : libraries*, Local Government Association, London, 2001
- 43 *Realising the Potential of Cultural Services : play*, (with John Taylor), Local Government Association, London, 2001
- 44 *Realising the Potential of Cultural Services : parks and open spaces*, (with John Taylor), Local Government Association, London, 2001
- 45 *Realising the Potential of Cultural Services : tourism*, (with G Evans), Local Government Association, London, 2001
- 46 *Sport and community development : A manual*, Research Report, No.86, Sportsotland, Edinburgh, 2002

## 資料 B (調査研究・委託研究)

報告書(プロジェクト名), 依頼機関, 提出年(総額6億円近い)

- 01 *Digest of Sports Statistics*, English Sports Council, 1990-1991
- 02 *Access for recreation and sport on Arran*, Countryside Commission for Scotland, 1991-1992
- 03 *Financially Assisted Transport : Rural Swimming Pools*, Scottish Sports Council, 1992
- 04 *Concessionary participation schemes in sport*, Association of Directors of Leisure, Recreation and Tourism, 1992-1993
- 05 *Planning for Countryside Sport*, Scottish Sports Council, 1993
- 06 *Sport 2000 Review*, Scottish Sports Council, 1993
- 07 *The impact of CCT on sports management*, English Sports Council, 1993
- 08 *Team Sport Scotland Evaluation*, Scottish Sports Council, 1993-1994
- 09 *CCT and sports development planning*, Scottish Sports Council, 1994
- 10 *Planning for Sport in the North West*, English Sports Council, 1994
- 11 *The impact of social class, household type and education on sports participation*, English Sports Council, 1994
- 12 *The leisure needs of young people in Wester Hailes*, Wester Hailes Partnership, 1994-1995
- 13 *Measuring Sports Participation : A manual*, English Sports Council, 1994-1995
- 14 *UK Day Visits Survey Report, 1994*, Countryside Commission, 1995
- 15 *Sport and Community Development*, Scottish Sports Council, 1996

- 16 *Feasibility/pilot for national survey of sports participation*, English Sports Council, 1996-1997
- 17 *School-age children and sport*, English Sports Council, 1996-1997
- 18 *Sports Participation : Trends and policy implications*, English Sports Council, 1997
- 19 *Facility Planning Model : Database*, English Sports Council, 1997-1998
- 20 *The impact of unitary prices on participation*, Scottish Sports Council, 1998
- 21 *Youth Sport : The evaluation of a strategy*, Scottish Sports Council, 1998-1999
- 22 *The introduction of sport to the PE curriculum*, Sports Council, Northern Ireland, 1997
- 23 *Sports participation in Scotland : 1987-1996*, Scottish Sports Council, 1998
- 24 *Sports participation in Scotland : 1997*, Scottish Sports Council, 1998
- 25 *The role of sport in urban regeneration*, Scottish Executive, 1998-2000
- 26 *Reference Pricing in Sport and Recreation*, Scottish Association of Directors of Leisure Services/Scottish Sports Council, 1999
- 27 *City Sport : Good Practice and Sustainability*, Sports Council Northern Ireland, 1999
- 28 *Sports participation in Scotland : 1998*, Scottish Sports Council, 1999
- 29 *Demand for Cricket in the West Midlands*, English Cricket Board/Sport England, 1999
- 30 *Evaluation of Youth Sport Northern Ireland*, Sports Council Northern Ireland, 1999-2000
- 31 *Sports Clubs in Scotland*, Scottish Sports Council, 1999-2000
- 32 *Youth Sport Foyle : An evaluation*, Sports Council Northern Ireland, 1999-2000
- 33 *Making the case for cultural services*, The Local Government Association, 2000-2001
- 34 *Sport and Community Development : A manual*, sportscotland, 2001-2002
- 35 *Best Value Review and Analysis*, Glasgow City Council, 2002
- 36 *Performance Indicators for Sport*, Sport England (with Sheffield Hallam University), 2002
- 37 *Young People and Sport in Northern Ireland*, Sports Council Northern Ireland, 2001-2002
- 38 *School Sports Co-ordinators : An evaluation*, sportscotland, 2002

(一橋大学大学院社会学研究科教授)